

# 日本人の

れもの vol.49

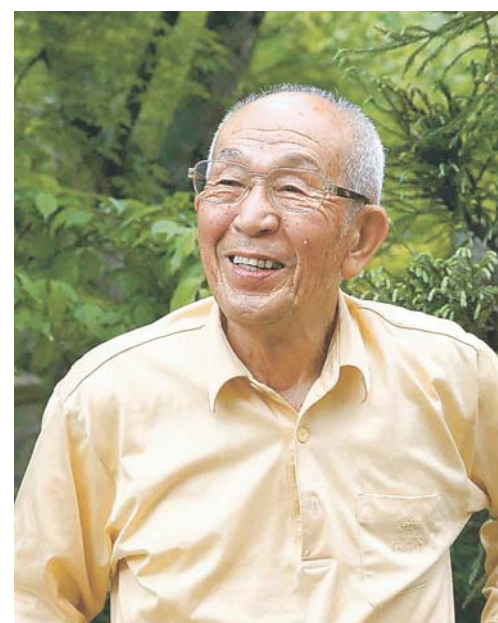


京都、このころここに

## 自然の営み

「植木屋」

佐野 藤右衛門さん



さの・とうえもん 1928年京都市生まれ。江戸期より植木を手がける「藤右衛門」を襲名。16代目。「桜守」として有名で、京都・円山公園、ドイツ・ロストックなど内外の桜を育成。「桜のいのち庭のこのころ」などの著書がある。

最近、異常気象や大きな災害が起きたと大騒ぎするが、自然とはもともとそんなものだ。自然の営みは二億年くらいはそんなには変わっていないはず。人間が自分勝手な物差しを作った、その物差しで自然を測ろうとするから大変だ、と大騒ぎしなくてはならなくなる。

自然に  
逆らいついでいる  
人間の身勝手



人間は自然に逆らいついでいる。他の生き物は逆らいついどなく、自然に合わせて生きている。私の仕事も、自然に合わせる

せてやらないと仕事にならない。木をひとつ動かすにも時期がある。自然の営みを無視してはできない。

と自体が人間の身勝手だ。日本人についていえば、日本の自然気候風土の中での立ち位置を忘れてしまっている。現代はもろもろの機械の力を借りて生活するようになった。詰まるところが原発で、手に負えなくなったら大騒ぎだ。昔のように水力で発電していたころは、電気はどうしてできるのか私たちが分かっていた。けれども、原子力による発電の仕組みは専門家しか分からない。しかも専門家はそれだけしか分からないから始末が悪い。全体を総合的に見通せない。基本的に自然の仕組み、営みが分かっている。

「米の文化」を忘れ  
「麦の文化」を  
安易に受け入れた

なぜこうなってしまったのか。思うに日本は「米の文化」なのに、それを忘れて西洋の「麦の文化」を安易に受け入れてしまったからだろう。稲の刈り取りが終わって麦をまく。麦が終わって苗を植える。始まりが逆だから発想も逆なのが当たり前なのに、麦に合わせた発想をするようになってしまった。

家を見て高層マンションがもてはやされ、上へ住むのがいいように言っている。町中の川も両岸をコンクリートで固めて雨どいのように水を流す。これは米の文化ではない。地面(金地)と水回りを重視し、これらをうまく具合に加減し

自然の営みに合わせて生きることが大切。人間は基本的に自然に逆らって生きることができない



戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

## 日本の暦

漏刻

6月10日は日本の暦にとってメモリアルデーです。日本書紀には天智天皇10年の4月25日(グレゴリオ暦換算671年6月10日)、「天文台に漏刻を置き初めて候時を打つ」とあります。1920年からこの日が「時の記念日」になりました。漏刻は古代の水時計です。階段状に並べた数個の木箱に一定速度で水を流し時間を計りました。暦と時間は一体のもですが、天智天皇当時は百済の元嘉暦を使っていた。

日本の公暦はその後、中国産の儀鳳暦、宣明暦などが使われ、江戸時代になって貞享、宝暦、寛政、天保の各国産暦を経て1873年から現行の新暦に移りました。正確な時間と暦の追求は、精緻を好む日本人の伝統的気質といつてよいでしょう。



株式会社井澤屋  
井澤 國子さん

## 美しい日本語

私は鹿児島出身ですが、子供の時に標準語に憧れた時期がありました。ラジオから流れるアナウンサーの話しか、本当に美しく、声に出して真似をしたものです。子供ころに、言葉の力に魅せられたので、今も日々店に立ち、お客様と接しております。言葉の持つ不思議な力を実感しております。

良い言葉は人として成長できるし、相手との絆や友情がいつそう深まることあると思います。

ところが、最近、気になることがあります。テレビなどを見てみると、ご挨拶、お礼の仕方、敬語の使い方、なにか置き去りにされているように感じます。その時々で正しく、美しい日本語を話せる力を身に付けると、言葉は輝きを増します。相手を思う、大切に言葉は、自己を最大限に表現することにも繋がります。その意味では、京都とはは尊重されているように感じます。

アナウンサーを真似た頃から随分と時間がたちましたが、もう一度、美しい日本語を学び直したいと思っております。

(「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページ  
http://kyoto-np.jp/kp/kyo-np/info/nwc/1/でご覧いただけます)



# 京都アルティズム

オンリーの歴史は、京都で生まれ育った中西浩一が、テラーとして独立開業したときから始まります。株式会社オンリーを立ち上げた北山通りでは、多様なスタイルで出店。トレンドを生み、街づくりの一翼を担ってきました。しかし、常に基本にあるのは、職人的なもののづくりの姿勢です。「アルティズム」は、そのアルティザン(職人)に、システム(体制)とイズム(思想)を融合。京都に腰を据えながら、斬新な発想で合理的な生産・直売システムを構築し、自社製スーツを全国に展開する自社店舗で販売しています。すべては、質の良いスーツをリーズナブルに提供してビジネスマンを応援するために。オンリーはさらに進化を続け、日本のスーツを変えていきます。

スーツと、ともに歩む。



ONLY corporation

業界初となるシンプルプライスを導入し、従来の販売方法を刷新させた「ザ・スーパースーツストア」。

## The @ SUPER SUITS STORE

Produced by ONLY corporation

女性のためのきれいなスーツ「シーラブススーツ」。

## She loves SUITS

株式会社オンリー<京都本社>

〒600-8427 京都市下京区松原通島丸西入ル玉津島町303番地  
TEL: 075-354-4129 FAX: 075-354-4130

www.only.co.jp オンリーで検索

お問い合わせ:フリーダイヤル 0120-945-045 (受付時間:平日10:00~17:00)